

つなぐ人の和ごころの輪

少し変わった振付だけだけど、それもまた良し



第35回ふしの夏まつりが東津河川公園で行われました。小郡の花火大会として歴史的な夏の行事です。古くは、十七夜管絃歳の花火大会として、その規模は西日本一とも言われたこともあったようです。

今回の大会アナウンスでは明治21年に始まったとのことです。その前年20年に東津橋（現在の昭和橋）が完成した記録がありますので、それを記念して始まったのかもしれない。

昭和40年代、新幹線の高架橋が会場の中央付近を通ることになって花火大会ができないということになったのです。しかし、花火大会を復活させようと当時の商工会議所青年部が中心に活動し、再開に漕ぎ着けて今回が35回

目となるわけですが。ここ数年は運営主体はおごり地域づくり協議会が他の団体などと協力して実行委員会を構成し、企画運営を行っています。

今年の花火は3000発。いろいろな形や色の花火が夜空を彩りました。ほんの一瞬の輝きだからこそ、魅力的なのかもしれません。

総踊りもたくさん地区や団体が参加して行われました。約30分の踊り、皆さんご苦労さまでした。この総踊りも8月7日の七夕祭りにおこなわれていたものが、夏祭りに統一されたのです。十数年前までは「踊り」だけの大会が、中学校のグラウンドでもありました。踊り手も仮装したりして楽しんでいました。

ボリ「おごりん」よろしくね

各地で地域イメージのゆるきやらが人気を集めています。熊本県の「クマモン」は今や熊本で一番「稼いでいる」かもしれません。おごり地帯づくり協議会では、「おごりん」をふしの夏まつりでデビューさせました。おごりんは

当初鉄道マンをイメージしたものが、かわい形に改良されて登場しました。これから行事の際に活躍するでしょう。



デザインは新町の林さん

草刈りと伐採ですつきり



周囲に気を付けながら刈払機の運転

地区には3か所の墓地があります
が、お盆を迎えるために21日一斉に
草刈り清掃作業が行われました。

年に一度の一斉清掃です。樹木のよ
うなものもたくさんあって、機械力が
ないと簡単ではありません。通路な法
面などをきれいにして作業は終わりま
した。

最後に今年から墓地管理人をお願い
することになった松井さんから、新墓
地の中央部の雑木の伐採が提案され
ました。ここは日ごろ誰も管理しない
ので、雑木が生い茂っています。雑木
の葉が落ちる寒い時期に作業をするこ
とになりました。

今年もやります

八方原ふれあい盆踊り大会

8月3日(土)午後7時より

三角公園(エイワンオート様横)

- ・バザー(当日券少々あり)
- ・花火大会やります!



「重労働」真夏の草刈り



早朝の涼しい時間しかできない

大雨に襲われた会場

ハラタコ

ふしの夏まつりの片づけの一番
最初は花火殻の回収と道路の安全
確認です。八方原地
区の有志の方にもご
活躍をいただきました。

大変ありがとうございました。
ございます。本格的
な片付けは、お祭り
の終わったその夜か
ら始まります。いろ
いろな業者が機材の
撤収に取り掛かりま
す。



激しい流れに洗われる河川公園(午前11時ごろ)

しました。ところが、そのころから
雨は激しさを増し、山口市大歳付近
では県道が冠水してしまうような状
況になりました。

八方原地区でも山口
金属局番工業さん付近
の道路が冠水し、一時
通れなくなりました。

榎野川の水位はどん
どん上がり、東津河川
公園にも水が上がって
きました。こうなると
人間の力では成す術は
なく、自分たちの身を
守ることが精いっぱい
です。会場に集めたごみ
はもとより、安全のた
めのコーンやバー、仮設のトイレも
激しい水流に流されてしまいまし
た。大型の発電機も冠水。折角の大
会がとんでもない結末になりました。

翌朝6時、清掃ボ
ランティアが会場の
ごみを拾って会場を片づけます。
当日の朝は、雷鳴がとどろく荒天
となりました。100人近い参加
者は大急ぎでごみを拾い、数か所
に集めて処理業者に収集をお願い
しました。

雑草管理が農業の一番の難儀、多く
の農業者が口をそろえて話されます。
当会でも雑草管理の共同作業に、僅か
ではありますが、援助をしているとこ
ろです。

黒瀬さんは今月も鎌で草刈りを行っ

ておられました。法面ですの下に草
を落とすと作業がしづらくなります。
刈り取った草を束にして、上側に置き
換えてはの作業。大変ですなと話し
けると「しようがないわーね」とひと
こと。ご苦労様です。